

2017年3月期

第3四半期累計 決算概要

2017年2月10日

日本マニユファクチャリングサービス株式会社
(証券コード：2162)



(参考) セグメント名称および主な連結子会社（決算期）について

セグメント	主な連結子会社 (決算期)	進出国	主な事業内容	製造プロセス
ヒューマンソリューション事業 (H S事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本マニファクチャリングサービス株式会社 (3月) ・北京中基衆合国際技術服務有限公司 (12月) ・北京日華材創国際技術服務有限公司 (12月) 	日本、中国 (連結対象) ベトナム、タイ (連結対外)	<ul style="list-style-type: none"> ・製造派遣、請負 (顧客構内請負) ・受託サービス (修理、製造) ・省力化機器販売 	基板実装 製品組立 物流、修理 等
エレクトロニクス マニファクチャリングサービス (EMS事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社志摩電子工業 (12月) ・株式会社テーケアール (12月) 	日本 香港 (中国) マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> ・電子電気機器製造 受託サービス ・省力化機器製造 	基板実装 基板組立 簡易プレス 樹脂成型、組立 等
パワーサプライ事業 (PS事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーサプライテクノロジー株式会社 (12月) ・株式会社テーケアール (12月) 	日本 香港 (中国)	<ul style="list-style-type: none"> ・スイッチング電源 ・トランス ・マグネットロール の開発・設計・製造 	トランス製造 基板実装 基板組立

1 2017年3月期 第3四半期累計決算概要

2 2017年3月期 通期見通し

通期計画に対する営業利益進捗率 85%

中国経済減速があったものの、各事業におけるこれまでの取り組みの成果もあり、通期計画に対し概ね堅調に推移

資産効率改善に向けた取り組みを実行

経営資源の最適配分及び効率的な生産拠点運用に向け
中国における生産体制見直しを実行

* 当社子会社志摩電子（深圳）有限公司の解散を決定し、中国における生産についてはT K Rグループの中宝華南電子（東莞）有限公司に集約（2016年12月16日開示）

資金調達が多様化等を推進、為替差損は大きく改善する見込み

2016年9月末時点の為替相場影響を主とした営業外費用（為替差損）を計上したが、この差損は、第4四半期に、12月決算の海外子会社において2016年10月から12月の為替差益が見込まれることや海外子会社への貸付金回収や資金調達におけるマルチカレンシー化等の取り組みを進めていることもあり、通期では大きく改善する見込み

- 営業利益の通期計画に対する進捗率85%
- 資産効率改善への取り組みを実行、これに伴う特別損益を計上

(単位：百万円)	2016年3月期 3Q累計実績	2017年3月期3Q累計		
		実績	前年同期比 売上高：% 利益：金額	主なポイント
売上高	47,227	42,115	△10.8%	【売上高・営業利益】 H S 事業、P S 事業が計画に対し概ね堅調に推移 通期計画に対する営業利益進捗率は85% 【経常利益】 営業外費用（為替差損） 768百万円 【特別利益】 固定資産売却益 622百万円 【特別損失】 子会社清算損 224百万円
営業利益 (利益率)	1,332 (2.8%)	853 (2.0%)	△479	
経常利益	973	53	△920	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	236	166	△70	

* 為替差損：主に海外子会社への貸付金に対する評価替え及び海外子会社間の取引等によるもの

1-2. セグメント別業績ハイライト

EMS事業は中国生産体制の見直しを実施、これに伴う売上・利益減があったもののHS事業、PS事業とも概ね堅調に推移

(単位：百万円)		2016年3月期 3Q累計実績	2017年3月期3Q累計		
			実績	前年同期比 売上高：% 利益：金額	主なポイント
HS事業	売上高	9,880	10,356	+4.8%	国内HS事業の取り組み成果による 収益向上もあり堅調に推移 前年同期に対し大幅利益増
	セグメント利益	40	206	+166	
EMS事業	売上高	24,015	22,383	△6.8%	来期以降につながる取り組みとして 中国生産体制見直しを実施、 これに伴う生産減等の影響もあり 前年同期では売上・利益とも減
	セグメント利益	215	140	△75	
PS事業	売上高	13,331	9,375	△29.7%	EMS事業からの固定費移動や 新規分野への製品投入端境期にある がグループリソース活用効果もあり 通期計画を上回る利益を確保
	セグメント利益	1,069	500	△569	
合計	売上高	47,227	42,115	△10.8%	
	セグメント利益	1,332	853	△479	

* HS事業：ヒューマンソリューション事業 EMS事業：エレクトロニクスマニュファクチャリングサービス事業 PS事業：パワーサプライ事業

* セグメント利益における調整額：2016年3月期3Q累計実績 7百万円、2017年3月期3Q累計実績 5百万円

売上高

10,356百万円

前年同期比 +4.8%

営業利益

206百万円

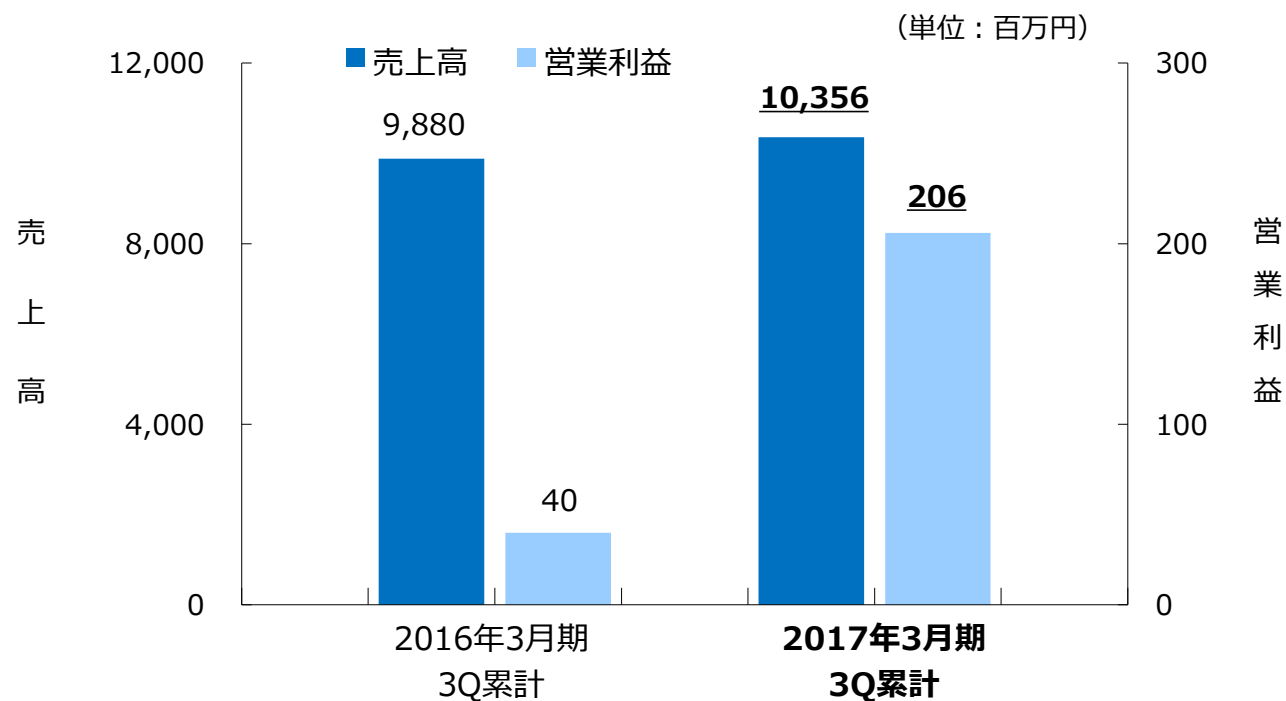
前年同期比 +166百万円

【国内】

- 正社員化や福利厚生充実等、採用力の強化とともに定着率向上で採用費を抑制
- 製造請負事業は、管理体制の強化を図り生産効率改善で収益向上に貢献
加えて、お客様との関係強化、単価交渉にも一部成功し収益性が改善

【海外】

- 中国における事業拡大の手段として、製造請負（承攬）の展開を増やすとともに
新たな人材供給ルートとして、中国最貧困地区からの労働力提供ルートの開発を推進



売上高

22,383百万円

前年同期比 △6.8%

営業利益

140百万円

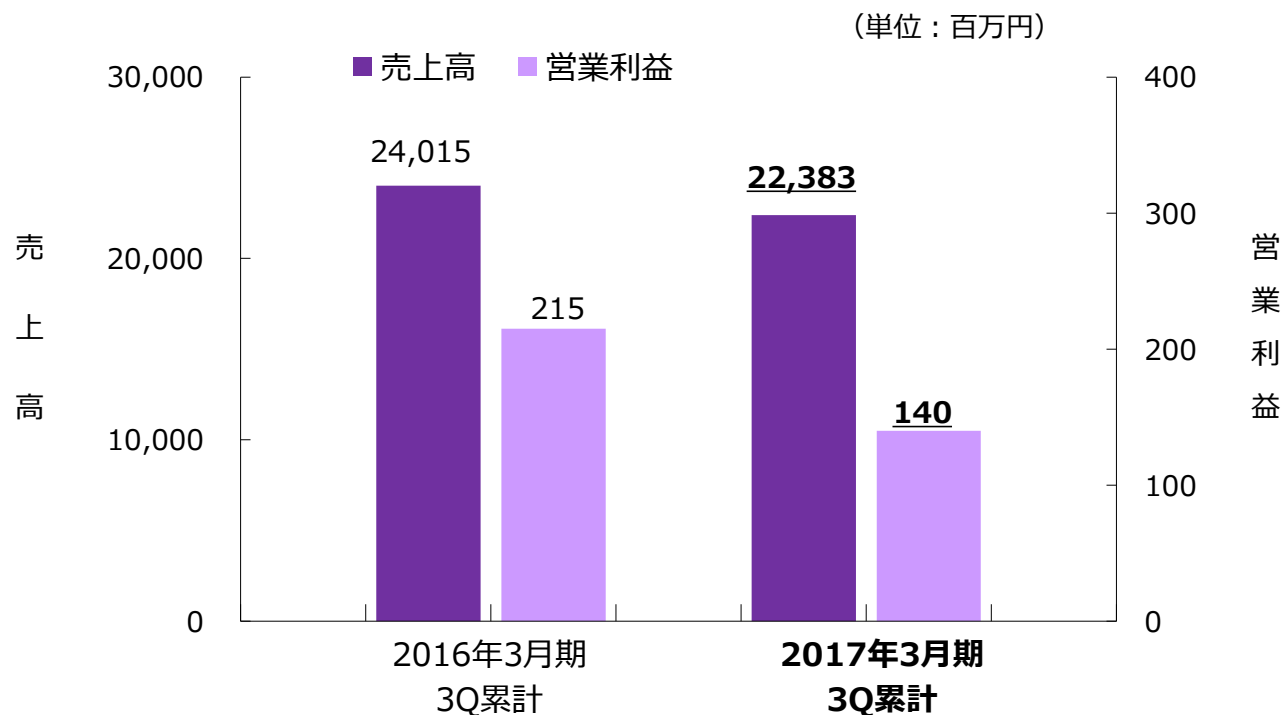
前年同期比 △75百万円

【国内】

- 中国経済の減速等により工作機械関連の受注減少影響があったものの、これまで行ってきたT K R国内製造拠点統合等による構造改革及び他セグメントへの人員移行を実施

【海外】

- マレーシアでは引き続き白物家電事業を中心に好調な業績を維持
- 中国における生産体制見直しによる影響や、受注環境の悪化が継続したものの、P S事業からの一部製造プロセスの発注もあり、想定を上回る利益を確保



売上高

9,375百万円

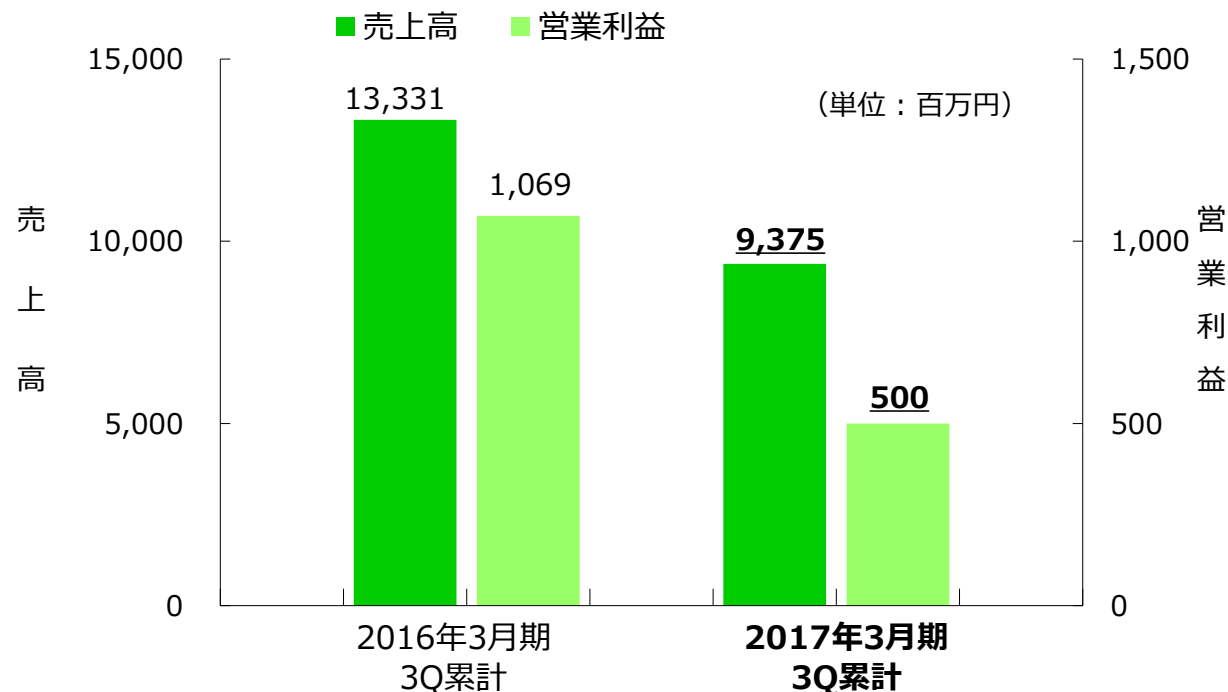
前年同期比 Δ 29.7%

営業利益

500百万円

前年同期比 Δ 569百万円

- E M S 事業からの固定費移動の影響や、新規分野への製品投入端境期にあるため前年同期比で減収減益となったが、一部製造プロセスのグループ内リソースの活用や経費見直し等により、想定を上回る利益を確保
- 技術者（開発者）のグループ内統合による開発リソース充実で、新規顧客の開拓を行うとともに、E M S 事業との共同営業や開発・技術機能の横断的体制構築を推進



1-3. 業績ハイライト (B/S)

(単位：百万円)	2016年3月期 (2016年3月末)	2017年3月期 第3四半期 (2016年12月末)	増減
流動資産	20,133	19,733	△ 399
固定資産	6,100	5,760	△ 340
有形固定資産	4,476	3,697	△ 778
無形固定資産	560	531	△ 28
投資その他の資産	1,064	1,531	466
資産合計	26,234	25,494	△ 740
負債合計	20,814	20,396	△ 417
流動負債	17,233	17,836	603
固定負債	3,581	2,560	△ 1,020
純資産合計	5,419	5,097	△ 322
負債・純資産合計	26,234	25,494	△ 740

1

2017年3月期 第3四半期累計決算概要

2

2017年3月期 通期見通し

2-1. 2017年3月期 通期見通し（2016年5月13日公表）

- 第4四半期も概ね順調に推移する見通し、通期業績予想に変更なし
- 為替差損については、第4四半期に、12月決算の海外子会社において2016年10月から12月の為替差益が見込まれることや、海外子会社への貸付金回収や資金調達におけるマルチカレンシー化等の取り組みを進めていることもあり、2017年3月期通期では大きく改善する見込み
- 前期比では減収減益となるものの、売上高・営業利益は過去2番目となる業績を計画次期につながる取り組みを継続的に行っていく

(単位：百万円)	2015年3月期 実績	2016年3月期 実績	2017年3月期 予想	前期比 売上高：％ 利益：金額
売上高	49,245	62,179	58,000	△6.7%
営業利益	493	1,940	1,000	△940
経常利益	733	1,350	900	△450
親会社株主に帰属する 当期純利益	571	375	600	+224

2-2. セグメント別 通期業績予想（2016年5月30日決算説明会公表数値）

(単位：百万円)		2016年3月期	2017年3月期	前期比
		実績	予想	売上高：％ 利益：金額
HS事業	売上高	13,215	15,975	+20.9%
	セグメント利益	142	300	+157
EMS事業	売上高	31,426	28,725	△8.6%
	セグメント利益	315	360	+44
PS事業	売上高	17,537	13,300	△24.2%
	セグメント利益	1,471	340	△1,131
合計	売上高	62,179	58,000	△6.7%
	セグメント利益	1,940	1,000	△940

*セグメント利益における調整額：2016年3月期実績 10百万円、2017年3月期予想 0百万円

会社名	日本マニファクチャリングサービス株式会社（略称：nms）
設立	1985年9月18日
代表者	代表取締役社長 小野文明
上場証券取引所	東証JASDAQ（証券コード：2162 上場日：2007年10月25日）
資本金	5億69万円
決算期	3月
売上高	621億円（2016年3月期連結）
従業員数	連結 8,265名（2016年12月31日現在）
事業内容	H S 事業（製造請負／派遣、修理・カスタマーサービス、技術者派遣） E M S 事業（電子機器受託製造サービス） P S 事業（電源分野における設計開発・製造・販売）
株主構成	小野文明 1,798,000 株（16.64%） 塩澤一光 1,426,500 株（13.20%） 兼松株式会社 1,080,600 株（10.00%） （2016年9月30日現在）
主な連結子会社	株式会社志摩電子工業 株式会社テーキアール パワーサプライテクノロジー株式会社

本資料のいかなる情報も、当社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。

本資料に記載された業績予想や将来の見通しに関する記述等は、資料作成時点での入手可能な情報に基づくものですが、実際の業績は、様々なリスクや不確定要素等により大きく異なる結果となる可能性があります。

当社は、本資料に記載された情報やデータ等につきまして、いかなる推奨・保証等するものではなく、発生したいかなる損害につきましても一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。

本資料に関するお問い合わせ
日本マニファクチャリングサービス株式会社
広報・IR室 Tel:03-5333-1711
E-mail: nms-ir@n-ms.co.jp

